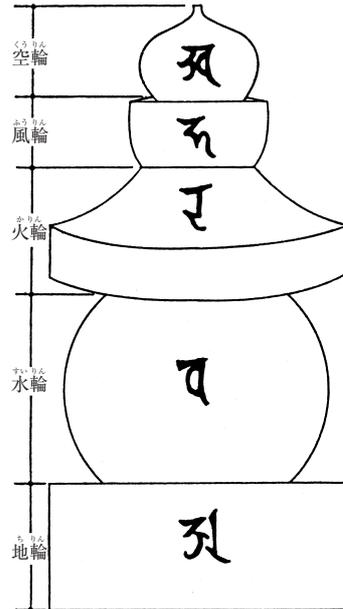


101 やしま ごりんとう  
矢島の五輪塔



指 定 市有形文化財 昭和25年12月 1 日  
所在地 矢 島  
所有者 宝 泉 寺



五輪塔の起源には諸説があるが、宇宙は地・水・火・風・空の5つの元素から形成されているという考えかたから発したとされている。また、大日如来を本尊とする供養塔として発展してきたものであることも、五輪の各部に大日如来の真言「キャ・カ・ラ・バ・ア」が刻まれている五輪塔が多いことから知られる。それが後に墓標としての性格を強くするのである（『日本石仏事典』）。

矢島の宝泉寺の境内にも、この五輪塔（石造）がある。その高さ1.5m、「水輪」の胴まわり1.64mの優美な塔である。言い伝えでは、矢島の豪族矢島氏が、祖先の供養のために建立したものといわれているが、詳しいことはわからない。

ところで、矢島村の市川庄平ほか6名から明治11年（1878）に長野県権令榑崎寛直へ提出した矢島村誌に、天保年中に宝泉寺の前の池（千田ヶ池）から一つの五輪石がみつかったとある。それには「喜峯道椿庵主 明応二天癸丑四月十一日」という銘があったと記されている（『長野県町村誌』東信篇）。この喜峯道椿がどのような人物かはわからないが、明応2年は1493年であるから、「諏訪御符札之古書」の文明17年（1485）条にみえる矢島（入道）道慶と同時代人だったことはまちがいない（矢島村誌は同一人物ではないかと推測している）。しかし、この五輪塔と先の五輪塔が同じものであるかどうかは、まだ確認されていない。